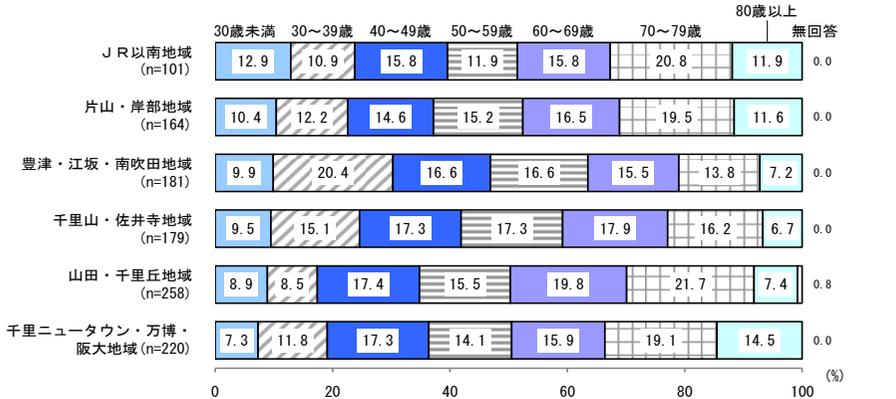


「5 計画策定の取組」変更(案)

ページ (骨子案)	骨子案(資料27(令和元年度末時点))	変更案(計画案に反映予定)																																																															
31	<p>5 計画策定の取組 (1) 地域福祉に関する実態調査の実施 本計画の策定にあたって、市民の方々を対象に地域福祉に関するアンケート調査を実施しました。調査の概要や結果については次のとおりです。</p> <p>ア. 回答者の属性</p>	<p>5 計画策定の取組 (1) 地域福祉に関する実態調査の実施 本計画の策定にあたって、市民の方々を対象に地域福祉に関するアンケート調査を実施しました。調査の概要や結果については次のとおりです。 なお、この調査結果は「吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書」として、市ホームページに掲載しています。</p> <p>ア. 回答者の属性</p>  <table border="1"> <caption>※【居住地別・年齢別】の集計結果を追加</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>30歳未満</th> <th>30~39歳</th> <th>40~49歳</th> <th>50~59歳</th> <th>60~69歳</th> <th>70~79歳</th> <th>80歳以上</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JR以南地域 (n=101)</td> <td>12.9</td> <td>10.9</td> <td>15.8</td> <td>11.9</td> <td>15.8</td> <td>20.8</td> <td>11.9</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>片山・岸部地域 (n=164)</td> <td>10.4</td> <td>12.2</td> <td>14.6</td> <td>15.2</td> <td>16.5</td> <td>19.5</td> <td>11.6</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)</td> <td>9.9</td> <td>20.4</td> <td>16.6</td> <td>16.6</td> <td>15.5</td> <td>13.8</td> <td>7.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>千里山・佐井寺地域 (n=179)</td> <td>9.5</td> <td>15.1</td> <td>17.3</td> <td>17.3</td> <td>17.9</td> <td>16.2</td> <td>6.7</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>山田・千里丘地域 (n=258)</td> <td>8.9</td> <td>8.5</td> <td>17.4</td> <td>15.5</td> <td>19.8</td> <td>21.7</td> <td>7.4</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)</td> <td>7.3</td> <td>11.8</td> <td>17.3</td> <td>14.1</td> <td>15.9</td> <td>19.1</td> <td>14.5</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	地域	30歳未満	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	無回答	JR以南地域 (n=101)	12.9	10.9	15.8	11.9	15.8	20.8	11.9	0.0	片山・岸部地域 (n=164)	10.4	12.2	14.6	15.2	16.5	19.5	11.6	0.0	豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)	9.9	20.4	16.6	16.6	15.5	13.8	7.2	0.0	千里山・佐井寺地域 (n=179)	9.5	15.1	17.3	17.3	17.9	16.2	6.7	0.0	山田・千里丘地域 (n=258)	8.9	8.5	17.4	15.5	19.8	21.7	7.4	0.8	千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)	7.3	11.8	17.3	14.1	15.9	19.1	14.5	0.0
地域	30歳未満	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	無回答																																																									
JR以南地域 (n=101)	12.9	10.9	15.8	11.9	15.8	20.8	11.9	0.0																																																									
片山・岸部地域 (n=164)	10.4	12.2	14.6	15.2	16.5	19.5	11.6	0.0																																																									
豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)	9.9	20.4	16.6	16.6	15.5	13.8	7.2	0.0																																																									
千里山・佐井寺地域 (n=179)	9.5	15.1	17.3	17.3	17.9	16.2	6.7	0.0																																																									
山田・千里丘地域 (n=258)	8.9	8.5	17.4	15.5	19.8	21.7	7.4	0.8																																																									
千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)	7.3	11.8	17.3	14.1	15.9	19.1	14.5	0.0																																																									

ページ (骨子案)	骨子案（資料27（令和元年度末時点））	変更案（計画案に反映予定）
32	<p>イ. 相談や情報の入手などについて</p> <p>① 暮らしや健康・福祉についての具体的な相談相手 暮らしや健康・福祉のことで相談する相手は、「いる」が81.8%、「いない」が17.0%となっています。また、相談相手が「いる」と回答した方について、具体的な相談相手は「配偶者」が61.8%で最も多く、次いで「友人・知人」「子供」「親」となっています。一方で、市役所の職員、社会福祉協議会の職員や民生委員・児童委員などの福祉関係の事業者・団体については、非常に低い割合となっています。</p>	<p>イ. 調査から見てきた課題など 本調査の結果から、地域福祉に関する市民の思いや課題と考えられる内容などを把握しました。ここでは、把握した内容のうちから特徴的なものについて示します。</p> <p>①「暮らしや健康・福祉についての具体的な相談相手」 暮らしや健康・福祉のことで相談する相手は、80%以上の方が「いる」と回答していますが、具体的な相談相手については、「配偶者」が最も多く、次いで「友人・知人」「子供」「親」となっています。一方で、市役所の職員、また、社会福祉協議会の職員や民生委員・児童委員などの地域の身近な相談支援者については、非常に低い割合となっているため、家族や友人以外で気軽に相談できる存在として知ってもらえるよう、それぞれの役割や業務などについて周知・啓発を進めることが重要です。</p>
33	<p>② 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手先として、市が発信するものでは「市報すいた」が75.9%で最も多く、次いで「新聞」が23.1%、「市ホームページ」が17.6%となっています。 地域団体や住民が発信するものでは、「自治会の回覧版や掲示板」が46.9%で最も多く、次いで「近隣住民のくちこみ」が19.1%となっています。</p>	<p>②暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手先として、市が発信するもので最も多いものは「市報すいた」で、世代を問わず見られています。次いで「新聞」となっていますが、年齢別で見ると60歳代以上の回答者が70%以上を占めており、次いで「市ホームページ」では、30～59歳までの回答者が70%近くを占めています。 地域団体や住民が発信するものでは「自治会の回覧版や掲示板」が最も多く、世代を問わず見られています。次いで「近隣住民のくちこみ」では、年齢別で見ると40歳代と80歳以上の世代で多くの回答があります。 情報の入手方法としては、現状では市報すいた、自治会の回覧版や掲示板は地域に浸透したものとなっていますが、今後は市ホームページなどのインターネットによる情報についても利用が進んでいくものと考えられます。</p>
34	ウ. 近所付き合いについて	項目削除

ページ (骨子案)	骨子案 (資料27 (令和元年度末時点))	変更案 (計画案に反映予定)
35	<p>工. 地域で暮らす中での問題等について</p> <p>① 地域生活の中で福祉について気になっていること 地域生活の中で福祉について気になっていることでは、「ひとり暮らしの高齢者のこと」が42.9%で最も多く、次いで「高齢者世帯のこと」が36.4%、「寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと」が26.5%となっています。</p>	<p>③ 地域で暮らす中での問題等について</p> <p>ア 地域生活の中で福祉について気になっていること 地域生活の中で福祉について気になっていることでは、最も多い「ひとり暮らしの高齢者のこと」をはじめ、高齢者に関する回答が上位3つを占めています。一方で、「孤独死」「児童虐待」「障がい者(児)のいる世帯」「ひきこもり」「子育ての不安を抱えている世帯」に関することについても回答が多くなっており、地域生活における様々な問題が顕在化しているといえます。</p>
	<p>② 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること</p>	<p>項目削除</p>
36	<p>③ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組 (住民の主体的な取組) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な住民の主体的な取組については、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が37.6%で最も多く、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」が32.9%、「自治会等が住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯等に取組むこと」が23.8%となっています。</p>	<p>④ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組 (住民の主体的な取組) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な住民の主体的な取組については、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が最も多く、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」であり、年齢別でも世代を問わず回答されています。次いで「自治会等が住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯等に取組むこと」となっており、回答からは地域住民一人ひとりの意識や取組が重要であるという思いが伺えます。</p>
	<p>④ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組 (自分ができること)</p>	<p>項目削除</p>

ページ (骨子案)	骨子案（資料27（令和元年度末時点））	変更案（計画案に反映予定）
37	<p>⑤ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組 （行政の主体的な取組） 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な行政の主体的な取組については、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」が35.4%で最も多く、次いで「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」が35.1%、「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」が26.3%となっています。</p>	<p>⑤ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組 （行政の主体的な取組） 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な行政の主体的な取組については、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」が最も多く、次いで「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」となっており、必要な情報を効果的に提供していただくことが重要であると考えます。また、次いで「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」「暮らしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること」となっており、必要な情報の提供と合わせて、福祉サービスや相談窓口の充実が求められています。</p>
38	<p>① 自治会への加入状況 自治会への加入状況では、「加入している」が53.5%で最も多く、「加入していない」が33.1%となっています。 隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入している」は“くらしのことで話し合ったり助け合っている”人で75.2%と最も高く、近所付き合いがなくなるほど自治会への加入率も低くなっています。</p>	<p>⑥ 自治会への加入状況 自治会への加入状況では、「加入している」が53.5%で最も多く、「加入していない」が33.1%となっています。 隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入している」は“くらしのことで話し合ったり助け合っている”人で75.2%と最も高くなっています。近所付き合いがなくなるほど自治会への加入率も低くなっており、地域でのつながりや助け合いの力を強くするためには、自治会加入率を向上させることも重要であるといえます。</p>
40	④ 地域活動に参加してよかったこと	項目削除
	⑤ 地域活動に参加していない理由	項目削除

ページ (骨子案)	骨子案（資料27（令和元年度末時点））	変更案（計画案に反映予定）
43	<p>カ. 社会福祉協議会やCSWについて</p> <p>① 社会福祉協議会の認知状況 社会福祉協議会の認知状況については、「設置されていることを知らない」が49.4%で最も多くなっています。次いで「名前を知っているが、役割については知らない」が36.5%、「名前を知っており、役割についても知っている」が10.9%となっており、両者をあわせた認知度は47.4%となっています。</p>	<p>ウ. 社会福祉協議会やCSWについて</p> <p>① 社会福祉協議会の認知状況 社会福祉協議会の認知状況については、「設置されていることを知らない」が49.4%で最も多く、また、「名前を知っているが、役割については知らない」は36.5%となっており、社会福祉協議会の認知度を向上させることが課題となっています。</p>
44	<p>③ CSWの認知状況 CSWの認知状況については、「配置されていることを知らない」が79.8%で最も多くなっています。次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が10.3%、「配置されていることを知っており、役割についても知っている」が5.2%であり、両者をあわせた認知度は15.5%となっています。</p>	<p>③ CSWの認知状況 CSWの認知状況については、「配置されていることを知らない」が79.8%で最も多く、次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が10.3%となっています。 社会福祉協議会の認知度と合わせて、地域の身近な「生活・福祉の相談員」として活動するCSWの認知度を向上させることは重要な課題となっています。</p>
45	<p>キ. 成年後見制度について</p>	<p>具体的施策「成年後見制度の利用促進（重点取組）」の内容に含めるものとして、一体的に構成する。</p>
49	<p>ケ. 再犯防止の取組等について</p>	<p>計画案において、地域福祉計画に内包する「再犯防止計画」の内容を示すに当たり、本調査結果の項目を含めた構成とする</p>